

LICENSED PRODUCT  
3/Color  
White  
Magenta  
Red  
Yellow  
Green  
Cyan  
Blue  
Black

長安子忠家傳

第三輯

三

1305  
16

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

善知安方忠義傳第三輯卷之三



第十五回

松亭金水編次

荷助山中に異人小逢ふ

里見谷川小少年を救ふ

龍の靈物りゅうのたまごとてなり。猶潛なほひそりて田小在ある。升天の時とときを俟まち多く。されば將  
軍太郎良門重太郎高純たかじゆん等ら。一天下てんかと覆おほす。俱とも小亡なす。父の本懐おんこころを達たせん  
と量はかりとどめ。時ときの到いたらぬ城しろとて。木曾きその山寨やまざい小潛ひそり。麾下かみの軍械ぐんぎ  
小合あひ。懸引けんいんと綱つな。専せんらその准備じゆんびをあけるが。是こゝより高純たかじゆん  
と一ひと来きし。人ひとをて。彼上野かののうのの鬼石おにいしが宅たくを候まちま。とて。彼宅かのたくの法度ほふど嚴げん  
系遊けいゆうが。有あり。之これを知しる。空あく。月日げつじつを遂つひふ。重太郎高純ちゆうたろうたかじゆん  
心裡こころ全輪ぜんりんく。且かつ。家系けいけいの一卷いっけん小過あやまちあり。千ちと大悔おほいも。甲斐かいとて。あひ。二日

善知安方忠義傳第三輯卷之三

も早くその有を定めんとし良門伊賀寿小由商議あり。草紙五六人を従て。潜る山寨をより出り忍びて上野の鬼石小到はる。豈計らんやその路徑の。邑郷小已を捕る。建接のわらん。つ將大膽なる重太郎も。伏し胸の裏。きて。まのきりて七と見え。西條重太郎のはりの。年齢恰好。云々。潮平の知縣荒磯環八郎。及び家人等成斬害あり。その砌より往方を知らん。朝故小類を。因て渠を捕へ出を考ふ。千金とて賞へ。且その弟子。里見近平也。まの黨類との間早く捕へ出へ。その面躰年齢恰好。云々。移し記せり。見畢りて重太郎。必るむも歎息し。知縣荒磯が奸謀佞智。人を害する。豺狼のごとく。世人との実を食り。とて人の賊吏多年の悪業。其身小飯し。吾們が手と假て。諸民の害と除き。皇天の凶計らひあり。彼荒磯が残酷あり。人を食ふの虎あま。とて執を禁む。とて。草紙併小は

者功あり。今將人を噬と悪ま。とて。成併小を悪む。然れども彼は官人此。平民の差別あり。その往方と探さむ可なり。朝故小類を。その実小鳥。許る。文牒あり。と。拳と固めて憤は。草紙もその機と察し。嘆ざらん。諸人の。災ひと禳ひ。然れは。忘る。建接とる。とて。酷吏が所為小。直る。多。毀ちて。通らん。と。いひ。果は。山刀。と。曳抜て。かの榜と。微塵小。と。替か。と。高純狼狽て。止め。汝も。吾と。人の。餘り。その志は。神妙。と。今。と。多。毀。と。高純。の。所。と。通。り。と。め。と。遠。近。小。か。と。賞。と。揚。り。と。智。の。農。民。噪。ぎ。と。還。て。の。血。易。く。若。と。の。ま。小。過。ん。と。の。を。草。紙。等。実。小。如。此。あり。と。怒。り。と。収。め。と。右。の。八。方。に。眼。と。配。り。心。と。若。て。その。不。虞。と。獲。り。け。が。程。徑。て。鬼。石。が。傍。へ。到。る。此。地。等。小。も。猶。建。接。あり。て。弓。断。ま。さ。ふ。あ。く。と。と。も。

善知第三輯卷之三

三

高小高資が癖小も。鬼石左近の舊き友まで志もすこ殊勝なり。因ておる  
 危急小臨之。渠と憑まが味界わく。と。休とこの所へ糸柱の頼成処へ  
 落行一。し。示せしと量まが。今その家に往くも。さう小過いあさる  
 一。餘所あが候ふこと。糸柱が有ま初。と。後。自身往て向ん小君と  
 思ひ決めて草城爲に。エ。し。ひけるに。草城の中栗嶺早太と。この往ぬ  
 頃。滝夜又に辱て下徳の古彼小在ける。と。亡ぶ時小及び。捷足さる。以  
 て。越中立山小注進有。今良門の隊小辱。這回伊賀寿の令に。高純  
 小徒ひ来ぬ。少くも。急あるの。あま。是と。首と。揮り。今  
 世の人心。笑の中小及と。藏人。親。さ。猶憑。こ。況や統領一面。威。お  
 らぬ人小素性を。明。糸柱四毒が有。成。岡ん。石と抱ま。て。淵小。縁。む。壁  
 小。奔。一。り。人。一。回。鬼。石。が。夫。心。を。起。さ。る。此。方。の。僅。小。五。六。個。忽。地。小。徒。搏。と。あ。ん。

まつ霎時。この色小潜。こ。渠。動。静。を。圖。り。あ。う。て。後。小。計。ら。ひ。く。切。小  
 して。止。ま。り。重。太。郎。現。あ。り。し。ゆ。ひ。さ。く。何。方。に。さ。り。思。む。ん。し。の。所。を。議  
 一。ける。小。属。徒。ふ。の。う。ち。小。爰。の。案。内。と。知。る。者。あ。り。て。是。より。二。三。里。東。北。の  
 方。に。至。り。鳥。巢。山。と。て。疆。知。る。ま。ぬ。高。小。あり。この麓。小。一。村。あり。て。す。竹。小  
 吾。們。が。親。し。き。友。あり。し。幽。る。獵。夫。あり。し。志。の。信。実。あ。り。て。異。心。を。抱。く。の  
 小。あ。ら。ね。ば。ま。づ。その。家。と。足。溜。り。し。て。俸。を。討。り。便。宜。けん。し。し。小。ふ。より  
 て。高。純。也。そ。と。こ。を。思。ふ。小。屈。竟。あ。ら。ま。づ。右。小。左。小。案。内。せ。ま。り。て。巢。鷹。  
 心の麓。へ。到。る。此。処。の。上。信。の。界。あり。て。その。心。極。め。て。險。阻。あり。麓。の。下。平。地  
 小。稀。わ。り。或。は。の。溪。川。屈。曲。し。或。は。松。柏。森。然。し。て。登。る。小。暗。き。所。あり。その  
 山。間。小。五。軒。七。軒。農。夫。の。住。め。と。田。畠。少。く。或。は。の。溪。門。の。小。魚。と。溪。つ。ま。り  
 樹。を。伐。て。柵。板。と。す。市。に。出。て。鬻。ぐ。も。あり。その。餘。の。常。に。心。稼。ま。る。獵。夫

あんど多く住つて、つても淋し死塞郷あて。名代十代田邑への入るも都に  
 ありあぐ。救代この邑の酋長として。十代田早苗助つりありあぐ。由  
 緒の若くは知れぬ。近隣の田島へ多くこの家の東西ありて農民のいふ  
 あり。樵夫獵夫が住める家さへ。十代田が作事して貸借あぐるまが自然  
 この土地の領主小舟も威勢あり。さうけいごと此処も是親王家の受領  
 ありて。その府の介掾目この邑を治めは。蓋その府の群馬の郡に在りて  
 程遠けよ。十代田早苗介をて。莊官小命せよ。と。近郷の政務を執るは  
 修小亞て人等殺ひかて。重太郎等へ。お来り。草紙が親とさ友とて。獵夫  
 弓六が方と訪ひ程を憑り。あつた。弓六夫婦とて。諾ひ。このお小注  
 めける。此処をいふ。海山腹あて。往來の人も多う。火固て。かの建榜。このまに  
 のまける。けい。谷心を易ん。て。且。お身と。潜り。栗鼠早太。以下。目。毒。鬼。石。後

へあて。その便宜を窺ひ。十日餘。お及びけり。案下某生再説を。おま  
 井荷助の系柱。重太郎より憑り。て。上野。おさ。越んと。園。ら。は。由。深。津  
 少。て。暴。の。病。ひ。お。心。神。悩。も。昏。暈。あ。せ。る。折。く。お。後。て。寢。人。兎。兎。僥。倖。と。て  
 系柱。お。び。旅。の。朔。度。及。已。が。草。せ。る。兩。刀。さ。も。奪。ひ。を。り。と。さ。も。一。つ。お。あ。り。と  
 け。ま。ご。こ。こ。は。速。く。推。む。死。贅。力。も。あ。り。火。眩。暈。て。さ。り。お。死。人。お。存。け。ま。ご。こ。こ  
 只。管。心。中。に。怒。る。の。み。途。方。あ。り。び。の。よ。く。悩。も。て。既。お。死。向。と。い。は。る。折。く。急。然。と  
 と。何。方。より。あ。り。来。り。け。り。童。顏。雀。髮。の。個。の。異。人。さ。お。来。り。て。荷。助。が。胸。を。雲  
 時。拵。と。と。き。え。し。は。し。の。苦。痛。忽。地。お。り。死。心。枕。も。吾。お。さ。へ。り。と。お。眼。を。向  
 き。て。熱。い。汗。に。曾。て。認。ま。る。人。お。あ。り。わ。び。訝。り。尊。老。は。此。処。を。涉。お。拙。む。人  
 あり。在下。不慮。積聚。お。困。ら。し。と。命。を。絶。ん。と。せ。り。と。扶。け。り。り。る。急。き。突。お。再。生。の  
 恩。人。さ。り。と。顔。若。か。の。異。人。の。微笑。て。ら。ち。急。改。と。い。は。る。の。山。中。に。栖。て。その。名。を

善兵衛三轉巻之三



荷助異人  
遭此一命を  
全之

小舟



廿九上異人

善知第三輯卷之三

蟾蜍と呼ぶものなり。其せる才能ありとも。雲を呼び風を起し。且人の  
 禍福吉凶もその病の根元を察し。とて治法を知る。因て人をも其  
 教の郷亦出て万民を扶けよと請はて。屢るれど年老て弟のこも懶う  
 けよと人と交りて成ねま。山中に明く暮る。春の梢の花と瞻望百千  
 鳥の啼る愛ふ心耳と澄して必ひを遣る。夏の新樹吹散風の袂涼し死  
 と快く。秋を隈る死月とそらる。峯の紅葉と錦と疑ひ鹿の遠音と友と  
 あり。老井の橋と森を不啼て。漫小幽栖を築て。冬に深雪の積る成て  
 枯木亦も咲く花と愛池と小まをく。水鳥の夢小困情を催まこと。言葉と  
 以て述ぐる。然もとも吾いこと。有髪ある桑門世ある人と等しく。汝  
 汝の何処の者あて。その山中亦未か。かく病苦亦逼る。殊亦その林  
 を刀で。あふ死人とも覺えぬ。を一刀も帯さぬ。究めて以のありぬに

疾の病その時宜小より。吾扶けて清き子へ。と向きて祈助の吐息吹き。云  
 以も面多死所為る。在下の信儀の玉潮平に住りのあ。故あつて云と互退  
 き一個の妹をぬて。この所へ来かり。小を憶も病苦亦困らと死向し。未信  
 小及び山旅と老。五六人頭とて妹及び旅の朔夜兩刀さ。亦奪りて  
 心地宛然昏暈せる。折るる。既斯の。然亦小固  
 て妙言さ。恩を知らぬ小似れども。哀もそのま死。これ。是より後亦自  
 由んば胡虜も。手と拱き。て。數回歎息してありけ。蟾蜍の叫びて打  
 領き。つ小も凡庸の人の心然かり。も理る。そと天の命救の道も。死所  
 あり。吾汝が相貌を觀る。小。今に。生涯を患若小送。未信亦愛慈に  
 死するの相あり。を。存する所ありて。一方の栄する。備その義心と願

小至らば生もやうび死もやうで廢人しうらむんべ。乞巧しうら果んし岐  
 て祈助の歎息。夫人の視の如くあり。世小ある甲斐も死身あり。いま  
 この危急に迫は残りて。その叔相の一指終妄うらざる。或自恥悟る願  
 う。此を一朝の露。消て未永劫。その若患を免るとる。さす不誠以  
 僥倖ありと。四をえまり。莞示しうら笑。この千仞ある赤壁小。身を  
 投ざるなり。微塵小碎けて。誰體しも知るうら。却て後の易りり  
 けり。と吐きまが。踊らさ。樹の根不足を踏りけて。真逆小陥る。或蟾蜍  
 のて注りもやうら。手と拱きて。口の裡何やら。啖々し喝ける。當下荷  
 助の千仞の溪小。踏びて自死せん。と覚悟しうら。れおひきや。良三丈も陥  
 つらんと。あり祈小。恥の止まりて。譬ば虚空小。住ひがごと。まこと雲上いんじやうに  
 坐ひ死し。疑ふ。その不測さ小。恍惚し。視上しやくじやうも。空のうら。高く直下ちくげに

霧きりまますすくく深ふかし。然しかるる小このの身みののああまま。此こ処こ小こ注ちゆまるるてて成な済じし。這こりり不ふ測そく  
 と腫はれをを定さだめめ。坐ましし。うう邊へををうう。視みるる小こ霧きり小こももああららひひまま小こももああららひひ。膝ひざ脆ちやく  
 とくとくててそのその身みをを纏まとふふ。傳つたへへ。中なかつ將しやう姫ひめがが。まま麻あももちちてて曼まん荼た羅らとと織おりしし  
 たるたる藕くわうのの絲いとをを。ささずずのの蚕かみのの吐つ出でせせ。絲いと小こ似にるるがが十じゆ重じゆう二十にじゆ重じゆう。幾いく十じゆ仞にんのの絲いと條じやう  
 うう。但たゞ重じゆうううりりてて荷か助すけがが。此こをを。空そら中なかつにに捧たかげげしし。蚕かみのの液えき。小こ彷彿ふつぷしし。うう道みち  
 小こ日ひああららでで若わかみみのの孩こきき。這こりりまま。何なに等とうのの怪け異いありりんん。とと其その故こ縁えんもも辨わかか  
 らら。碎くだりり如ごとくく痴ちあるるがが。下した件けんのの絲いと條じやう。風かぜ小こ従したがふふ。雲くも小こ似にてて。稍しやう々々小こ勝かつつ  
 するする。最さい前ぜん踊おどりり入いりり。豁さつ口くち小こ未みららけけりり。ととささららてて異い人にんのの莞わん示ししし。ううら  
 笑わらひひ。汝なんぢのの身みをを。ちちちちちちちちちち。深ふか谷や小こ陥おちりり死しるる人にんととすすことと。命いのち救すくのの盡つ  
 ぬぬををりりてて。其その志しのの導みちがが。故こ小こ吾われ秘ひ呪じゆをを喝かくへへ。このこの祈いのちへへ曳ひ揚あげげしし。今いまもも我われ  
 小こ従したがひひてて。神かみをを煉ねりり。氣きをを伸のびびしし。天あまよりより稟りんするる。存ぞん命めい微い運いん也や。還かへてて其その身みにに



潔く快くしまるてあらん我今こそ成考るに汝が妹と称する處女も一旦  
 いその難あまこと。後にかあらん志を遂はしてわが志にあまは。その思ひ  
 悩ま。頼る事と前ふら。飄々然と歩行をえて。荷助の夢の言をうて。  
 渾身も突然清々あう。覺え小けと何とす。異人小従の教を受んと。  
 跡小若てぞ急ぎゆ。粵小ま。里見近平の。知縣の廳を噪して。雜人們と難  
 倒し。高資が痛癢を負ふ。とと。初と行きたの心許なく。血路をひらいて。  
 漸く此処へ来て。とと。重太郎の影。ふえ。西條九郎が。家居の。  
 極火熾小燃わがり。焰十方小飛散。更に傍著く。不抜。這い知  
 練の雜入。素々。火攻小あすう。とと。邊の。高資自身火  
 と放。重太郎の何方ぞ。眼の及ぶ。一息手掛りの。わが。  
 大希望と失ひ。重太郎やどの者。を。手小挂らん。小我

やの火を放ち。父を伴ひ山路不入りて。騒ぐ。とと。道ま。右左ま  
 間小勢集ひて。素ら。進。あらん。礼雜ある。その中に。且此  
 起を奔る小若ト。さ。何方へらん。西條父子の上野。鬼石小由緒  
 のわ。使。必。往。吾もその迹。往。倍とあま  
 びし。沉吟定めて。此出。侯雲時。本。道龍が。鼻と。極て  
 番兵埋伏せん。と。漂蕩中。下。索めて。火坑小墮。が。新なり  
 と。山。を。巡。不。心。決。引。返。半。人。由。通  
 びる。徑路を経て。各。あ。淡。間の山の麓。出。芽。高。首。踏。けて。その夜  
 山の。小。臥。彼。方。此。方。し。呻吟。小。重太郎が。往。悩。む。赴。小。一。差  
 び。その。翌。の。日。未。の。頃。高。純。が。渡。り。さ。葛。梁。の。も。小。素。と。り。あ。ま。と。り  
 半。駒。を。り。尙。重。太。郎。と。と。渡。り。彼。草。絨。を。阿。園。梨。太。郎。小。與。と。と。塞

一往する迹をて。その人の一個も居らぬ。近平のこゝをて。今と的のうらち架  
 らん。必ひうらちが忠孝の士の高き小登らぬ深き小入り。若過のあゝん  
 小の臍を噬し。もとの益を。是より右手へ廻り。任名行程の遠くとも。徑  
 路の究めてありぬべし。夫と索めて測り。多。如此かろく。自回自答。胸  
 うら。決めて頭を廻ら。その谿小副て。ゆるぐに。向のへ。波は路のあゝん。凡  
 三四里許を終て。漸く谿の切門小出。より。近平秋。び左右と。なるに。必ひの  
 外小路隔り。今まで頭との如く小覚え。洩間が嶽の遠ざり。右手小藏く  
 う。高山の流て。さるる上野の巢鷹ふにありぬべし。是あり麓へ出るとも。草津  
 へ。ま。遠くもあゝん。日。も。晡時。あるに。急が。麓の。里へ。出ん。足に。任して。性  
 ける。馬。小一條の。溪川。あり。その。幅。さの。之。度。く。松。ど。嶺。より。滴る。清水。集。ひ。て。  
 常。小水。勢の。卑。る。流。小。頃。日。高。嶺。の。雪。消。ゆ。水。嵩。の。倍。て。漲。る。水。の。疾。き。

下。箒。と。射。る。如。く。あ。ま。近。平。近。く。逃。こ。り。岸。に。控。ま。し。て。信。と。て。遠。い。多。く  
 小。衣。を。著。て。涉。り。え。い。れ。ぬ。く。ま。い。一。脛。中。と。肌。捨。着。ひ。れ。解。き。衣。類。約  
 て。一。所。小。纏。め。兩。刀。袂。共。纏。を。り。て。緊。と。縛。し。肩。小。引。け。赤。條。く。ま。り。て。下  
 り。ら。新。小。遠。く。ま。い。如何。小。忽。然。と。浮。つ。沉。ま。り。漲。る。水。小。捲。ま。り。流。ま。る。者  
 十二。三。の。少。年。な。り。見。見。は。流。ま。り。と。て。定。り。久。郷。人。の。見。が。早。川。の。鮫。を。と  
 捕。ん。と。て。押。流。ま。り。と。り。の。あ。ま。い。吾。僥。倖。と。小。在。り。援。け。む。ら。あ。ぶ。り  
 ら。矢。庭。小。肩。あ。る。名。類。及。び。兩。刀。と。岸。に。抛。棄。濁。水。に。捲。ま。り。入。り。彼  
 少年。が。登。成。松。を。て。曳。揚。ん。と。り。け。る。を。踏。り。け。る。底。の。大。石。を。一。抱。も  
 ち。ん。と。て。急。に。小。捲。ま。り。と。て。二三。間。轉。り。流。ま。り。水。の。勢。ひ。烈。く。死。放  
 かり。里。見。心。利。き。者。あ。ま。い。小。足。を。深。め。り。右。と。俱。小。流。ま。り。と。て。左。手  
 小。彼。兒。の。警。戒。把。り。右。手。と。伸。り。て。水。と。捲。き。忽。ち。岸。に。足。踏。り。け。む。を。少

年を曳揚る小。今もや正氣もあつて。然もど頃刻して水どふ多く  
 飲ざる容。こまは活きんぬい易し。さらば渾身の凍えより火をひてこま  
 と煖めずい。蘇生らん。とあるべし。生怖ありて燧をひて。是はあはれ  
 辛し。うり。奈何おせま。し。沉吟のをりう。向ひの岸も三四個周章惶  
 怖近まる人あり。是をえるより岸を不地奇り。まづ近平に舎敷して。何  
 処の何方存せざと。その児の體を曳揚る。悉くさよ然いわも。彼方世方  
 の巖角小うちつけ。とて身や碎けえさ。ずば渾尻を煖めて。活還する  
 手段もあらん。し。小近平は下等。この少年の由縁の人。今曳揚り  
 る。は。渾身小麻のあり。あ。も。さ。か。わ。ね。ど。水底に永く沉む。容少のあ  
 り。活きんぬ。活きんぬ。困り。燧を拵む。汝達準備あり。と。同  
 小一人對して燧を。在下腰間小著てあり。去來を方へ。涉らん。し。近き辺

の人い。ま。さ。ふ。ふ。ふ。ふ。の。ね。お。急。地。衣。と。引。解。き。帯。り。て。滅。して。顔。不。裁。せ  
 交。り。と。飛。入。り。と。秘。多。此。方。の。岸。に。暮。れ。渾。身。を。拭。ひ。衣。袋。を。と。り。ま。づ。近  
 平。に。一。夜。を。吾。們。の。巢。鷹。の。麓。小。柵。は。十。代。田。が。家。隸。わ。り。て。甲。乙。せ。り  
 この少年の主人の末子。名は。太郎。と。呼。び。ひ。が。このを。好。て。山川。を。ま。づ。便  
 小。住。む。て。築。を。架。躰。及。び。鱧。鱒。魚。黄。額。吳。石。斑。魚。後。父。吳。嘉。吳。の。餘  
 の小鼻を。漢。子。く。食用。し。も。あり。市。に。活。る。この。漢。川。小。り。柵。箇。所。あり。今日。の  
 その。巢。何。許。か。る。と。あ。らん。と。尚。小。さ。り。出。此。所。や。彼。所。と。う。り。巡。り。この。川。上  
 小。架。さ。る。築。に。多。く。入。る。鼻。を。え。て。こ。ま。成。捕。ん。と。吾。們。が。雷。も。可。以。その  
 上。小。架。さ。る。一。築。懷。ま。その。身。も。俱。不。陷。り。と。嗟。や。と。讀。く。その。間。小。築  
 の。も。六。烈。一。死。水。を。沸。て。堰。止。め。あ。る。と。六。壞。は。う。う。水。勢。弥。増。し。那。智  
 布。引。の。滝。津。流。も。こ。ま。の。過。下。し。人。まで。水。音。高。く。白。泡。さ。り。渦。く。放

小この義子ヲ。姿をさへ小見失ひ遠い吾們が一大事と。せどさうに詮方知  
らる。踞蹠りさるその拵く。遙向の小浮と出るで見ゆるよう各逸足おして逸  
証さまで。矢を射るなりりの水勢早くろくし體小遊つたがこる刃小安  
き逸くも下りて曳揚るる摩るさ過りて三郎が墮らひ吾們的骸發  
るるもその詮まけさ。その骸をさ失ひて。生て再び帰りが。是より  
川下七八町あり。左右小巖石峙ち。荊棘路を埋めたり。そとより一町をりて  
過る。救十丈の谿ありて。この水の漲り落る世に白糸の滝と。人此処小  
至る。修身身に肉の翊を生ずるし。和みの骸を索めたり。危きこ小  
てひひ。と吐息吐り。物移る。各面色土の如く。その間に燧を持は。一個の  
雄士この木の枯草を断雜松が枝の枯るるを。拾ひ集め。頼て燧  
をとりぬ。火を挿め。煙をたて。炎く燃上は。こをえて。里見の三郎

衣類と脱せ。縁てし。玄海より水死の活法胸より腹より。煖め。中  
腕のあらしと推て。水と屢吐せ。や。霎時ありて息ぬり。ここととよふる  
人へのさうに蘇生の心地あり。歡びあ人と限る。まづ巳着る衣類を  
解て。三郎より。苦まるに。行文をこ。合む。おと身と。温むるに。是れり  
とて。暫く介抱をりけり

第十六回

豪富恩を酬して里見を款待  
藝の身と。擗ふ指術の功驗

初て里見近平の箇ふ。この人々。山川を渡り。或るに烈しきことにて。深  
ら。風市の多。或る。か。浅瀬の。若。此の少年と介抱して。  
漸く息の返ひとも。ふ。この。風。小。再。冷。多。病。疾。ひ。小。深。せ。ん。疾。く。家。に  
昇りて。や。初。の。介。抱。大。切。なり。と。促。し。て。十。代。田。が。家。人。小。三。郎。と。負。い

其の身の偲ふ赤條。去来とてて成渡りあつた。彼家人等の手を組  
 みのせ。水切切て恙なく。向ひの岸へあがりけり。船は築き成前にて。山の昔  
 路を踏まひて。程と九十町あり。此地は陸の寒郷なり。松あり。大屋の  
 構へ外面の如く。總湊なり。程ある。舟の瀬門。左手の方の聖に。輝き  
 土庫と。穀戸あり。建利。湊の石の橋と架さる。此所ぞとひて。家人等  
 へ。跡あり。里見。舟を積り。寶門と。湯と入る。近平と。舟に。続き。入る。四  
 り。成。え。ま。の。ま。に。門。内。つ。も。度。う。あ。て。城。あ。る。ね。ど。も。武。者。屯。ま。す。拵。取。の  
 摺。極。あり。左。右。あ。る。極。込。の。千。葉。か。ま。ね。老。松。の。今。と。春。と。翠。さ。り。菫  
 梅。小。枝。ぶ。接。海。棠。桃。の。花。互。に。色。と。争。ふ。い。登。衰。榮。枯。の。世。の。理。非。情。の  
 草。木。も。猶。然。り。況。や。人。小。於。て。を。や。身。の。救。代。潮。平。に。貪。り。け。し。ど。も。世  
 と。累。秘。住。し。身。あ。ら。る。我。の。為。小。故。々。と。餘。物。不。述。と。暗。き。百。折。千。磨。は。苦

艱く。今。の。僅。に。五。尺。の。身。と。安。く。措。小。所。を。の。み。小。あ。ま。し。由。一。期。の。窮。迫。実。小  
 榮。枯。の。界。を。り。と。この。時。小。至。り。い。見。る。物。と。不。此。理。ある。成。感。涙。せ。と。の。ま。と  
 ち。前。面。を。見。ま。し。ま。い。ま。実。と。覺。了。た。方。に。弓。矢。を。務。ま。甲。冑。の。餘。の。兵。具。と  
 運。け。ま。船。に。その。家人。等。の。あ。を。も。過。て。右。手。の。方。常。人。に。出。入。を。許。す。内。玄  
 扉。小。池。到。り。三。郎。を。負。ひ。し。ま。う。あ。て。兩。三。個。の。奥。へ。中。残。り。家人。近。平。小  
 う。ち。對。ひ。て。と。是。吾。們。が。主人。十。代。田。が。住。居。あ。て。ひ。かり。潛。く。と。小。俟。せ。ら。る  
 ば。主人。小。あ。の。う。浮。況。を。頼。て。高。へ。奉。ら。ん。と。い。ひ。里。見。い。念。執。り。て。在。下。界  
 の。功。あ。ま。い。傷。と。あ。る。来。る。と。却。て。終。謝。成。望。む。小。似。て。鳥。瀝。の。白。痴。を。う。け。り  
 と。主人。が。授。け。の。め。り。へ。て。城。め。の。ぬ。小。あ。ら。る。と。い。ひ。疾。路。より。各。小。別。して。去。ら。ん  
 と。い。ひ。う。と。実。い。裏。所。の。名。知。茶。肉。と。ま。り。前。小。慈。之。に。旅。店。あり。や。否。も  
 知。ら。ば。日。脚。も。晡。時。小。近。平。小。備。宿。借。は。べ。た。家。と。小。あ。ら。る。に。做。さん。と。膝



善知新三郎

十二

心小の便を失ふの類の今宵一夜安く明さむと必ふなり。此処  
 までもありゆひつる。さうもまゝと序をわけて主人の若小岩のへ。慇懃小遣へ  
 けまの家人等の氣を済く。走り行すが程もあつた。下僕もあつた。西三個  
 鹽に湯湯汲て来た。橋の前小町。居る六件の家人等。泣出た。衣束も足と  
 沃がして頼此方へ来た。主人十代田早苗。自身途へ奉つる。昔より  
 三郎が為の療告の片時も閑がたれ小う。无様の段の儀。重小も省想の  
 してしまひして。此の儀宜しく斜容あつた。大慶小は。救回額某ての。叮嚀  
 と場をわて。里見の額の汗を拭ひて。某とびこせ。今も今も。その儀をまじ  
 ひひ。某宜みの少年を。授けし奴の。その寸功と。蓋小著て。未  
 まり。必り。某人の。実小在下。心小あつた。洗ぎの湯まで。湯り。つる。物。名ら  
 結く。必り。某。是。ま。で。立。退。る。人。宜。く。憑。こ。ま。お。ら。ぬ。といひ。捨て。頭。を

廻ら。是。早。めて。立。出。る。家。人。等。さ。う。より。大。小。周。章。金。剛。と。日。履。お。次。  
 泣。来。り。て。袖。を。控。へ。貴。き。を。か。日本。魂。を。理。あ。る。小。似。と。ど。も。主人。お。つ。た。在。下。小  
 が。身。不。成。の。悪。人。あ。つ。た。成。つ。て。鹿。男。小。あ。つ。た。七。任。意。の。ま。袖。を。拂。ひ。互  
 退。ら。んと。做。し。の。人。も。吾。們。も。貴。き。を。手。足。小。賣。保。て。止。め。ま。わ。ら。ぬ。遠  
 人間の。実。情。を。誰。か。こ。と。我。知。ら。ぬ。べ。た。安。き。が。心。然。る。て。み。づ。く。ま。く。吾  
 們。が。心。の。程。也。か。量。り。て。止。り。ぬ。と。切。小。を。と。と。近。平。也。今。の。様。さ。う。小。所。わ。く  
 然。ら。ぬ。の。ひ。て。立。帰。り。草。鞋。脛。中。に。解。捨。の。是。を。沃。ぎ。て。裡。小。入。ま。は。家人  
 等の。案。内。して。の。と。度。り。う。る。客。の。間。の上。坐。小。お。居。て。頼。て。茶。と。出。し。菓。子  
 を。出。し。答。應。わ。れ。ぬ。の。お。の。老。生。管。ま。わ。り。叮。嚀。小。額。某。の。い。る。や。う。在。下。の  
 早。苗。が。老。僕。あ。つ。て。その。名。を。鳥。威。引。板。郎。鳴。時。と。ま。う。以。老。小。は。たり。兼  
 の。と。壯。年。ど。も。末。子。三。郎。を。誘。ひ。て。川。瀬。の。築。を。さ。ま。あ。り。三。郎。退。て

川小陥る。既小體をわし流さる。目妻する。是れ時ふ及び。和若速小救り。坐を退ひ。瘡を如へ。ついで使侍に息出て急あ。とち疾りの段偏小。君が情に。因て壯年ども案内して。あふ伴るひまお。ひより。早苗のみ頼より。必運入。厚き慈と。謝ま。たあ。三郎既小和若が情。息の返せ。りの。い。生れ。針。醫師。あ。山。取。ま。主人。自身。瘡。甚。を。如。ひ。手。と。放。ち。ぐ。故。に。在。下。と。り。此。よ。と。倍。後。奉。つ。る。所。を。り。ま。り。寛。や。り。甘。ぎ。ひ。て。長。途。の。勞。を。と。想。め。り。頼。り。主。人。も。罷。り。出。て。對。面。を。請。ま。ら。ん。と。い。ふ。里。見。も。身。と。踐。巡。て。瘡。を。復。し。各。を。り。その。顛。末。い。ん。と。り。言。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。三。郎。若。の。て。目。未。つ。つ。る。性。質。あ。つ。その。後。辨。へ。あ。う。ね。と。も。水。の。毒。吐。り。ひ。て。腹。中。尚。あ。り。平。穩。あ。り。い。が。を。替。け。る。所。を。も。て。惱。め。と。言。え。り。物。閑。り。

あて。財。物。の。大。く。快。死。し。り。の。ま。ま。疾。彼。見。り。の。ま。ま。病。者。の。為。小。軍。り。び。古。丸。書。小。の。り。あり。緡。紳。の。子。の。幼。弱。り。拳。養。保。護。さ。る。が。故。に。筋。骨。却。て。脆。し。と。り。食。後。の。者。の。こ。と。と。殊。ゆ。て。沈。ま。を。奪。り。寒。暑。と。避。ひ。あ。を。り。て。筋。骨。別。し。三。郎。若。の。富。家。に。生。ま。珠。に。末。子。の。血。の。餘。と。と。男。後。の。若。ま。り。奪。走。ひ。況。や。富。家。報。不。於。て。荒。き。風。も。ゆ。を。奪。り。と。保。護。最。重。る。と。け。は。苗。様。の。節。の。一。倍。小。惱。り。は。祈。あ。う。ん。今。一。時。も。過。あ。ん。の。平。快。歎。ひ。あ。れ。り。の。あ。り。と。禪。ら。ん。端。に。小。奴。等。が。持。運。ぶ。酒。散。折。敷。小。載。て。恭。ま。り。里。見。が。赤。小。丸。居。ま。り。里。見。い。と。と。見。て。遠。の。何。事。ぞ。か。く。叮。嚀。あ。り。款。待。い。元。未。已。が。心。小。わ。り。び。只。一。椀。の。飯。一。杯。の。羹。ゆ。て。禪。の。足。ま。り。在。下。既。小。棲。を。離。と。て。一。所。不。住。の。素。浪。人。が。は。孫。孫。味。の。似。合。し。う。り。び。然。と。も。各。が。好。ま。小。性。は。も。惶。け。し。と。辞。せ。び。と。と。成。場。う。ん。と。の。ひ。り。蓋。を。受。は。り。ん。





用らばその容易けき。さうして或うとありし。在下が住む寒地の。さうして  
 自在を渡さるに因りて。先年春。一行脚の僧。指粥を以て人小教  
 一御氏あまが。場を受く。然し。その術の。海小通曉。が。け。は。あ。ま。は  
 を克するの。の。暮。在下。僂。侍。小。の。僧。小。隨。ふ。と。半。年。可。也。粗。其。の。粥。の。傳  
 へ。を。得。て。功。と。顯。り。さ。る。と。間。く。わ。り。こ。し。醫。人。の。知。ら。ざ。は。新。茶。餅。の。他。の。一  
 法。で。草。根。木。皮。の。力。を。假。び。を。経。絡。を。專。由。せ。固。て。練。ま。る。人。万。小。ッ。を  
 能。を。満。ぎ。の。人。も。毒。と。ま。る。新。結。て。や。若。し。と。名。し。の。い。ふ。の。指。粥  
 と。り。て。三。郎。君。が。醫。病。を。治。め。ん。と。い。ふ。と。い。は。果。て。早。苗。ぬ。い。近。平。が。顔。を  
 成。り。て。歎。息。し。人。の。能。否。い。その。見。て。は。野。を。以。て。察。し。ご。滴。り。足。下。が。体。を  
 視。て。武。人。な。り。と。い。ふ。察。ま。る。う。今。の。世。の。慣。ひ。と。く。在。や。新。く。を。遊。行。す。  
 飯。法。及。び。弓。馬。の。藝。を。試。し。ら。は。う。と。樂。し。と。し。世。に。武。者。修。行。と。稱。さ。る。

人あり。ありぬべし。いひ。い。が。然。せ。る。終。成。海。の。人。と。現。小。寒。郷。の。宝。を。り。  
 争。若。し。い。ひ。ひ。ら。ん。鹿。林。ち。と。ど。も。心。を。表。は。こ。酒。飯。を。喫。し。て。後。三。郎。が  
 醫。病。の。若。し。と。救。ひ。の。う。あ。ま。に。超。は。能。び。あ。う。見。の。う。小。も。憑。ま。ま。わ。り  
 へ。と。慙。懃。ふ。ひ。け。と。い。近。平。の。美。諾。し。高。より。精。の。佳。殺。を。り。て。十。分。餐  
 應。尔。復。ら。う。り。と。名。此。と。い。の。う。珍。味。も。曾。て。望。と。い。ひ。ら。び。然。ら。ば。寝。所。一。葉  
 内。の。の。と。在。下。が。身。小。考。え。し。り。の。の。活。療。し。て。進。ら。せ。ん。と。い。は。十。代。田。ら。ち  
 秘。び。さ。も。あ。ら。ば。一。刻。の。早。き。方。と。を。倍。あ。う。め。疾。母。方。へ。と。さ。れ。小。と。ら。末。子  
 三。郎。を。卧。し。の。し。一。室。小。伴。ふ。小。渠。が。枕。方。後。方。の。侍。女。婢。女。の。類。と。い。え  
 て。ま。ど。十。四。五。あ。る。處。女。より。四。十。に。近。き。女。み。み。ど。七。八。個。圓。扇。し。て。茶。と。燈。め  
 横。の。上。より。足。み。ど。摩。り。て。小。抱。ひ。近。平。の。容。成。見。て。の。う。あ。る。野。渡。小。舟。可  
 也。富。貴。と。究。む。り。の。あ。う。ん。目。さ。な。り。た。く。ふ。し。眼。も。あ。や。右。左。に。張。懸。





を施す。夕のついでに、と示統る。秋はあつと。づにあらんと十代田が。憑む廻を  
 凌果て。つしより易き世に、争遠背と致は。は老若男女尊卑といふを  
 つたふ。陋し秋形をりて。功あらん自他の僥倖。何を辞し中ひ。死若  
 子いこそ少く疾愈え。乞々今より内室の病牀へ伴ひぬ。心を竭して治  
 療あさん。し信ごらんに。早苗か。うら秋びて侍女等に。その。秋の遺  
 まは。晩稻の。つて枕方を。見若しき東西指揮して。取收めさせ。俟むに。  
 頼て主人の先か。ち。此処を。渾家が。居る所。病か。あなまが。沙様を。し  
 く。无袴の。許し。もの。し。念。秋。ま。ま。た。近。平。も。念。秋。做。し。つ。影。し。入。り。て。晩  
 稲が。容成。右視左視。に。威。の。五。十。を。六。七。つ。も。紹。し。く。又。も。色。白。く。  
 髪。懸。り。て。髪。の。黒。く。昔。床。し。く。あ。り。あ。ら。う。純。子の。瀧。園。縞。珍。の。横。枕。の。金  
 襦。襦。の。類。の。も。や。枕。火。小。映。ど。て。観。ぬ。ま。で。お。え。え。枕。方。の。黒。漆。に。

金銀をりて堆高く。翁濟かり。く。鼻紙。徳宣。徳の。炉火。燭。に。も。情  
 少の。瑪瑙の。盆に。青磁。ある。香。炉。お。た。る。香。を。薰。り。せ。し。ま。つ。室。中。宛。意。こ。し。こ  
 が。あり。顔。部。し。く。鼻。穴。穿。て。る。近。平。の。ゆ。ち。に。育。て。て。元。来。貧。困。の。身。に  
 し。あ。ま。毛。笄。の。結構。説。話。小。も。吹。さ。る。て。の。あ。ら。ま。も。唯。号。し。小。あ。れ。ま  
 づ。そ。し。人。の。世。に。あ。は。れ。や。四。肢。百。骸。億。兆。の。人。物。さ。く。ら。に。後。を。あ。け。し。と。富。貴  
 貧。富。流。れ。か。む。り。差別。あ。る。こ。も。不。測。ま。さ。と。古。人。も。富。貴。に。流。れ。美。を。忘  
 海。鏡。滅。め。ら。あ。ま。を。り。て。思。ひ。當。ら。ぬ。彼。三。郎。が。子。舍。成。さ。ん。眼。を。し。し。と  
 必。ひ。が。此。処。に。遙。ら。ん。十。倍。実。小。善。美。成。畫。し。と。母。子。尊。卑。と。願。て。も。る  
 ら。ん。と。眼。の。隈。さ。う。ち。瞻。望。頼。て。病人。の。候。に。傍。副。ひ。乞。く。療。治。し。赤。と。色。ん  
 じ。に。こ。と。の。己。グ。身。を。願。し。て。手。袋。の。布。と。纏。小。漆。し。も。悟。若。て。その。見。若。し  
 き。様。ご。く。渾。身。由。縮。む。必。ひ。あ。ま。と。と。初。て。止。づ。た。ら。う。ね。縞。珍。の。横。に

手をさし入いはしまはしめるたけは松の摩をとり晚の猶は吐息はなくも実不希代る藤  
 流くを稍に和らだはははしの人を秋代田侍女共も必ず人藤と進む所  
 を隔紙あけて媛は寮未身ひぬると額妻侍女その次の間小敷人の女子  
 雪洞懸て出来るあり畢竟媛の人誰を次の卷に分解ます一

善知安方忠義傳第三輯卷之三終

